



輝き

～「Open Share そして Team で」～



令和5年 1月 31日 三木市立三木特別支援学校

After GIGA を考える

～ひとりひとりの将来に向けて～

寒さ厳しい、これぞ冬という毎日が続いています。

一歩外へ出ると、キリッとした空気に体がシャンとします。

さて、2019年12月に閣議決定されスタートした、「GIGAスクール構想」は、コロナ禍により加速し、児童生徒1人1台の学習用PCとそれを活用するための高速大容量の通信ネットワークの整備が進みました。

「GIGA」とは「Grobal and Innovation Gateway for All」の頭文字を取ったものです。「すべての児童生徒にグローバルで革新的な入り口を」という考え方に基づいています。大きな目的は児童生徒の個性に合わせた教育の実現にあります。

本校でも、子どもたちがさまざまな形でタブレット等を活用しています。またモニターは、動画、手順、完成作品、タイマーの「見える化」等、子どもたちが考えたり見通しをもったりするのに大活躍です。これらの機器が学校生活だけではなく子どもたちが生きていくうえで大きな支えになってくれるものと期待しています。とりわけ、コミュニケーションツールとして自分の欲求や思いを表出する場面に出会うと嬉しくなります。「うれしい」「しんどい」「やりたい」「やりたくない」がわからず、「伝えたい」子どもも「わかりたい」指導者もどれだけ苦慮、工夫してきたでしょう……。

先日、高松 崇さん(NPO 法人支援機器普及促進協会理事長)のお話をうかがう機会がありました。「機器の活用について伸び悩んでいる(もう少しうまく使ってほしい)」「本人が(使用内容等も含め)決める主体性を」「子どもたちの『やってみたい』『もっとしゃべりたい』をひきだす」「先生たちがやっていかないと子どものところに届かない、提供されない」「支援機器ありきではない。子どもに機器を合わせると双方の負担減」等々スマホのアクセシビリティさえ使いこなせない私には目から鱗が何枚も落ちた気がしました。令和以降を生きていく子どもたちに昭和、平成と同じ力の育成だけを求めてはダメだと痛感しました(不易の部分は別にして)。

1人1台はゴールではなくスタートです。GIGA を入り口とした場合、出口にどうつながるのか。本校の児童生徒の出口である 自立と社会参加に向け、再度、個々の生活全般の中で、PC やアプリ、AI とのうまいつきあい方の習得、今、この子がやっている〇〇は、その子の「生きる」「生きやすさ」のどこにどのようにつながるのかについて考え実践していく価値が私たち大人に問われているのです。

くどうなおこさんの詩「いのち」にあるような学校でありたいと思います。

卒業後にも使える力、生涯学習につなげるには好きなものから始まる「学びたい」だとか

「さて、明日、子どもたちと一緒に何ができるかな? 楽しみ! 楽しみ」

いのち
けやきだいさく

わしのしんぞうは
たくさんの
ことりたちである。
ふところに だいて
とても あたたかいのである
だから わしは
いつまでも
いきていくのである
だから わしは
いつまでも
いきいてよいのである



くどうなおこ「のはらうた」より